

# 大学院特別講義

講師 **笠原恵実子**

「美術をつくる、社会を創る」

令和 8 年 6 月 19 日 (金)

17:40 – 19:10

会場：金沢美術工芸大学 3 号館 101 講義室 (3101)

対象：学生、教職員 \*学外者入場可

## 講座概要

アーティストの笠原恵実子さんは、社会的・政治的なテーマをミニマルな造形言語によって表現してきました。また、作品制作と並行して、「表現の現場調査団」や「芸能従事者協会」に関わる中から、芸術に携わる人々が働き、活動する環境の調査や、その改善に向けた活動にも取り組んでいます。

本講義では、前半に笠原さんのこれまでの作家活動についてご紹介いただきます。後半では、芸術に関わるさまざまな立場の人々が活動を継続していくための環境づくりや課題について、お話を伺います。

なお、現在金沢 21 世紀美術館で開催中の「コレクション展 歩く、とどまる」では、笠原さんが 10 年以上にわたり取り組んできたプロジェクトの一端を紹介しています。後半には、本展を担当した学芸員の池田あゆみさんも登壇し、展覧会のお話も交えながら、対話を行います。



笠原恵実子《DR 2019-》 photo: Kiyotoshi Takashima

笠原恵実子 (Kasahara Emiko)

1988 年多摩美術大学大学院美術研究科修了。彫刻、オブジェクト、写真、映像、パフォーマンスなどのメディアを用い、女性や身体、性差といったテーマから、宗教性や制度、植民地主義といった社会構造を問う表現を展開、主なプロジェクトに、85 か国の教会の献金箱を記録した《OFFERING》や、戦時中の陶器製手榴弾を扱った《K1001K》などがある。第 3 回光州ビエンナーレ (2000)、横浜トリエンナーレ (2001・2014)、シドニー・ビエンナーレ (2004)、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 (2015) など国内外で発表、収蔵先に東京都現代美術館、京都国立近代美術館、栃木県立美術館、クイーンズランドアートギャラリー (ブリスベン)、パークレー美術館 (UC パークレー大学)、フォグアート美術館 (ハーバード大学)、カンターアーツセンター (スタンフォード大学)、ドイツ銀行などがある。

お問い合わせ先：金島研究室 (kaneshima@kanazawa-bidai.ac.jp)